

令和7年度 江戸川区立小松川第二小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	からでも心も健康な子ども ○よく考え工夫する子 ○思いやりのある子 ○力を合わせやりとげる子					目指す学校像 ○みんなの笑顔があふれる学校 目指す児童像 ○探究欲、交流欲、挑戦欲のある児童 目指す教師像 ○児童と共に常に学び続け変わり続けることのできる柔軟な教師	
前年度までの本校の現状	成績	1 児童の運動意欲調査の肯定的意見が目標を上回った（目標80% 結果90%）。 2 児童の学校生活満足度調査の肯定的意見が目標を上回った（目標80% 結果91%）。 3 保護者に対する授業公開、教育活動情報発信の肯定的意見が目標を上回った（目標80% 結果86%）。 4 小中連携により進学に悩むと回答する第6学年児童の割合が目標を上回った（目標80% 結果81%）。					課題 1 授業改善、補修指導の充実 東京ベーシック・ドリル（3年、6年算数）の平均正答率60%、全国学力・学習状況調査C層、D層の児童割合が50% 2 不登校児童、令和6年度末報告児童数31人（児童数に対する割合5%） 3 いじめ認知件数 令和6年度末報告数89件

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価（A～D）	「中間」 学校関係者評価（A～D）	「年末」 自己（学校）評価（A～D）		「年末」 学校関係者評価（A～D）	次年度に向けた改善案	
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業力の向上	・校内研究及びOJT研修の充実 ・相互授業実習の実施 ・他校授業実習の参観 ・IC機器及び对话を取り入れた授業実践の日常化	・年4回の研究授業の実施 ・全教員が学年別・日の回互換実習 ・全教員が毎日1回はOJT機器活用、対話を取り入れた授業実践	80%		B	・1回は実施、3回は計画済み ・実施率は8割、学年1回は確実に実施 ・全員実施、2学年毎で計算して実施後は還元研修 ・自己評価と他教員評価の確認 ・田代先生とお話しした結果は64%、2年割り以上は毎日実施を徹底する。	B	・このつながりを実現し向こさせるのが具体的な取組の運営を実現したい。学生とともにどのように学んで、何を教えるか等、様々な研究を行って、より良い実践へと繋げていけたらいい。 ・4回の研究授業に、学校評議員が参加できるようにしてほしい。			「達成度」及び「評価」 A基準：9割以上達成 B基準：7割～9割未満達成 C基準：5割～7割未満達成 D基準：5割未満の達成 予め設定した基準で評価すること。
	○学習習慣の定着	・家庭学習の取組の充実 ・放課後学習教室の強化	・保護者の肯定的評価90%以上 ・放課後学習教室参加児童全員、自身の学力向上肯定100% ・学習意欲向上児童90%以上	80%		B	・肯定的評価90%以上 ・84%が自力解決ができるようになったと回答した。 ・80%意欲高まっていると回答した。	B	・当該児童が、自身の学力向上を肯定しているのは素晴らしい。 ・担任のあたなかな頃ましが有効である。			
	○読書科の更なる充実	・読書科における探究的な学習の充実	・高学年児童の探究的な学習コンクール参加100% ・前年度より読書量が増加した児童100%	80%		B	・1年～高学年児童全員が学習コンクール参加予定、年度末に全員が実施で達成する。 ・前年度より読書量が76%（2年生以上）、年度末までには80%が達成したと想定される。	B	・過去の本校の読書研究発表の資料等を参考にするといい。 ・読書の収穫により、児童の探究力を高めることを意識である。			
体力の向上	○体力の向上	・年3回なわびと週間実施 ・体力測定での質の向上 ・運動習慣向上	・短縄の習得率、回数等前年度比より増 ・体力測定で全学年、全項目全員平均より上 ・週5回、30分以上運動する児童90%	60%		C	・短縄の習得率6%、年度末までに2回の体力測定により目標達成 ・「走る」と「跳ぶ」の全員が全項目合格、達成のある児童につづき運動習慣向上している。 ・運動を充実させている。 ・乳酸下限が、あまり下がらない。	B	・「走る」に偏らず、基本の運動に継続的に取り組むことができる必要ではないか。 ・走るだけではなく他の運動に組みこむことが大変よい。 ・今後も継続してほしい。			
	○健康教育の充実	・全学年指導教諭による健康教育の実施 ・学校保健委員会等での保護者に向けた啓発	・年2回の健康指導を全学級で実施 ・3・4年生指導教諭による未だ未習得のある児童80%減 ・保護者の健康教育への肯定的評価90%以上	75%		B	・年2回の健康指導を全学級で実施 ・3・4年生指導教諭による未だ未習得のある児童80%減 ・保護者の健康教育への肯定的評価90%以上	B	・年2回定期検査、9月以降も未習得子を対象とした定期検査を実施する。 ・年2回定期検査、9月以降も未習得子を対象とした定期検査を実施する。 ・定期検査75%、学校保健委員会の実施により担当教諭が実施する。			
	○食育指導の充実	・栄養士による食の重要性や安全性の指導実施 ・給食試食会等での保護者に向けた啓発	・年1回以上全学級で食育指導の実施 ・保護者の食育への肯定的評価90%以上	75%		B	・1・2・3学年で実施、3・4・5学年は9月以降実施予定 ・肯定的評価90%、11月に試食会を実施、便り等による啓発	B	・1・2・3学年で実施、3・4・5学年は9月以降実施予定 ・肯定的評価90%、11月に試食会を実施、便り等による啓発			
教育共生・社会推進のため ・実行会議に対する理解促進及び積極的交流	○特別支援教育の充実	・校内委員会及び校内研修の定期的実施 ・SCやSSWとの連携強化	・特別な支援を必要とする児童への対応100% ・SCやSSWとの連携により、児童の行動改善が80%以上	90%		A	・定期検査100%、教職員のほぼ1回以上実施 ・教諭による児童の行動改善93%、乳幼児の後項目、運動会にも関わらず	A	・児童の特性やニーズを的確に把握、支援計画を作成し、因縁個々に個別支援がされることを期待する。			
	○エンカレッジルームの活用促進	・児童及び保護者の本事業に対する理解促進 ・教員とエンカレッジサポートとの連携強化	・利用児童、保護者の肯定的評価90%以上	60%		C	・調査内容に不備あり、今後利用者に販促し定期調査を実施 ・全校の周知を実施（学校により・新1年保護者会）	B	・担任とエンカレッジルームスタッフとの連携強化を続けてほしい。			
	○外国籍児童に対する理解促進及び積極的交流	・校長及び教職員による異文化理解の指導充実	・海外の人との交流に対し肯定的評価90%以上	80%		B	・文化などと日本文化を96%理解でき、「没収禁止」などとされているため、海外の方との理解、異文化の尊重でなく、文化及び教職員の異文化理解の困難に対する肯定的評議会の開催を望むところです。	B	・本校の特色を生かしながら、今後も異文化理解の指導を充実してほしい。			
不登校・充実実行のため の取組	○不登校、登校渋り等への取組強化	・月次不登校の発生をゼロ ・月1回の不登校対策委員会の実施 ・L-gateの日常的活用	・新規不登校の発生をゼロ ・登校渋りを理由とする欠席児童前年度より10%減	60%		C	・新規不登校発生1生徒（1名） ・不登校児童・名医見合せ ・不登校対策委員会月1回実施 ・登校渉りを理由とする欠席は前年度より45%減	B	・新規不登校発生は未達成であるが、登校渋りの欠席率は大きく上昇していることは評価できる。 ・不登校対策委員会に回ることができる体制にしてほしい。			
	○いじめの未然防止、早期発見、早期解決	・年3回のいじめアンケート及び対策委員会の実施 ・L-gateの日常的活用	・いじめ解消率90%以上 ・児童の学校生活満足度95%以上	80%		B	・いじめ解消率83% ・児童の学校生活満足度86%	B	・新規のいじめ解消率が93%、児童の学校生活満足度86%			
	○教員の対応力・連携力向上	・年1回外部有識者によるいじめ対応研修実施 ・生活指導会及び校内外OJT研修で全校共通取組の理解	・自身の対応力、連携力についての自己評価、全教員年度当初時より向上	80%		B	・年1回の研究会は実施済み ・高まったと回答した教員73%、年度末までに100%となるよう、担当者に改善策指示	B	・中間地点で対目標に対し、100%達成している。 ・研修により対応力への自信を高めてほしい。			
学校へ向けての発信 ・地域連携のための取組	○学校ホームページの定期的な更新	・適時情報発信により、保護者や地域等関係者への情報提供充実	・毎日の更新 ・各学年や行事の取組事後1週以内配信	60%		C	・更新できたと回答した教員70%、年度末までに100%となるよう、担当者に改善策指示	B	・新規更新は無理に実施ではなく努力でないと感じる。 ・地域や保護者や学年での取組を周知できるなどの観點について、全教員員で共通理解してほしい。			
	○学校関係者評価の充実	・学校評議委員会での双方方向の意見交換の実施	・年3回学校評議委員会において、全項目前年度比評価維持、向上	80%		B	・6月、9月の2回実施、1月は今年度の報告、次年度の評価項目の提案	A	・学校評議員が経験できていない取組についてには、補足説明が必要である。			
	○異年学年交流活動の拡大、充実	・月1回の異年学年交流活動及び行事や集会等での異年学年交流の場拡大、充実	・児童による自治的活動の肯定的児童90%以上 ・他者との交流に意欲的な児童95%以上 ・他学年との交換がいる児童95%以上	90%		A	・異年学年交流の肯定的評価88% ・他学年の児童との交流や異年学年交流の評価88% ・他学年の児童95%以上	A	・長年にわたり取り組んでいるため、大きな特色と見える。思いやがらせ等がうまれているのか検証について検討したい。			
教育の特徴のある ・地域連携のための取組	○キャリア教育の充実	・全学年キャリア教育の根柢を生かした学級・学年経験会実施 ・教員によるキャリア教育の根柢を生かした授業及び教室連携の充実	・「キャリア・パスポート」を生かしたキャリア教育の実施100% ・担当教科に合ったキャリア教育の実践100%	80%		B	・80%の児童が実践会 ・22%の児童が実践会実施 ・全教員によるキャリア教育の根柢を理解させると児童の実践会の提案を校長が実施	B	・今後キャリア教育を教育課程にどう位置付けていくか注視したい。成績が生まれているのは現時点では評価できない。			
	○外部機関との連携強化、外部人材活用の充実	・保護者や地域の大学、企業、連携中学校等外部機関との連携強化、及び人材の積極的な活用	・全学年、年1回以上、外部機関との交流を実施	90%		A	・全年度7月までに1回は実施。今後も多くの外部人材活用を予定。実施後の児童の満足度や教育効果検証を行なう。	A	・どのような外部機関と、どのような目的で、どんな力を育てたいのか説明が必要である。			